

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370105250 | | |
| 法人名 | 株式会社 ファミリーズ | | |
| 事業所名 | グループホーム パラディーン神宮寺 (1F) | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区北方1-14-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 31 年 4 月 7 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成 31 年 4 月 13 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく生活して頂いています。
笑いだけではなく泣きもあり喜怒哀楽がはっきりしているホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールにはゆったりと寛げる和室やソファがあり、穏やかに過ごせる環境が整備されている。また、利用者と一緒に天ぷらを揚げたり、ゴルフ雑誌を用意したりする等、利用者の役割や趣味嗜好に配慮しながら、各自のペースに合わせて楽しく生活できる様に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 業務内での疑問点・改善点が必要な時には申し送り時に話し合い、解決できないときには職員会議で話し合いケアの統一を図っている。 | 2階の事務所に理念を掲示し、日常的に振り返るようにしている。また、業務中に聞くこともある。新入社員には、オリエンテーションの中で説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内掃除・町内のイベントに積極的に参加し幼稚園へのイベントにも参加している。中学生の職場体験も毎年受け入れている。 | 幼稚園の七夕会を見に行ったり、町内の餅つきや夏祭りに参加したりして、地域と交流している。また、中学生の職場体験を受け入れたり、月行事の時に地域のボランティアが参加したりしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 利用者の方と町内行事に参加したり運営推進会議に町内会長さん民生委員の方に参加してもらい認知症の方の理解・支援の仕方を理解して頂ける機会を作っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町内会長・民生委員・家族の方に参加して頂き意見交換を行いサービスの向上につなげている。 | 市職員や町内会長、民生委員、家族が参加して、2ヶ月に1回行っている。内部行事や人員配置、地域の独居状況等について報告や話し合いを行っており、生きた会議となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市・県の研修に参加している。運営推進会議にも参加して頂いており意見交換・近況報告を行い協力関係につなげている。 | 運営推進会議に市職員が毎回参加しており、サービスの取組状況等を積極的に伝えている。また、市主催の研修にも積極的に参加しながら、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を設立し拘束委員会を中心とし、勉強会を行い拘束のないケアを行っている。 | 毎月、身体拘束委員会を開催している。また、マニュアルを整備し、インターネットや新聞等で引っ張ってきた内容を基に年3回、勉強会を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 会議やグループ全体研修などで勉強している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用する機会があり勉強なった。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約・締結・解約、また改定時に家族と面会を行い十分に話し合いを行い理解・納得してもらえよう努力している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議に参加して頂いたり個別に意見・要望を聞き、家族の方からの意見・要望は職員で共有している。 | 運営推進会議や面会時に積極的に話す機会を設け、意見等を聞き取っている。また、聞き取った意見や要望は職員間で共有し、反映できるように努めている。利用者は日常会話から聞き取ったり、汲み取ったりしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個別に面談を行ったり会議等で話し合ったりして職員の提案等を受け入れている。 | 個別面談や職員会議の中で職員の意見や提案を聞いている。また、変化があったり、何か様子がおかしいと感じた時は、管理者から積極的に職員へ話しかけている。出た意見は、勤務体制・時間等に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 個別に面談したり総務に不安・不満を言いに行ける環境を作り、楽しく働ける様努力している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 内部・外部研修の内容・感想を会議で発表を行っている。外部研修の声掛けなども行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修などを通じて同業者との職場訪問を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前、面談を何度か行い家族・本人から今までの生活歴を聞き今までの生活に近づける様努めている。接する時間も大切にし、安心して生活出来る様努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前面談で、本人・家族の意見・要望を聞き入れ、入居された次の日家族へホームでの様子を電話で報告している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面談・話し合いでご本人・家族が求めているものを見極め要望に近づける支援を提供できる様努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ご本人が出来ることはして頂き、洗濯星、たたみ、トレー拭きなど、職員と行い共同生活を楽しんで頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の役割を無くす事なく家族・職員が協力し、話し合いを行い関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの店へ買い物へ出かけたり友人・知人の面会・電話を受け入れている。 | 馴染みの美容院や喫茶店、かかりつけ医へ行く利用者や、自分の携帯で友人に電話する利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、家の近くをドライブする等、馴染みの場所との関係継続の支援に取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を理解し、職員が入りながら関わりを持てるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 終了後も必要があればご本人・家族の相談に応じる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話からご本人の希望・想いを見つけられるよう努め、会話で気になったことは、記録に残し職員で共有している。 | 気になることがあればその都度、声かけて把握している。また、出た意見等は記録に残し、連絡ノートを活用して情報共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入院先の病院・通われていた同業者からも情報収集を行っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人個人の生活リズムを大切に心身状態を職員が理解し変化があれば情報を記録に残し、色分けしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者との会話で要望を聞き、ご家族には面会時・電話などで聞きとり介護計画に反映している。 | 更新時、家族面会時に聞き取った内容を計画作成担当者がケアプランに反映している。また、日常生活の中で利用者から聞き取った意見等も反映している。月1回モニタリングを行い、6ヶ月でまとめて職員に配布している。そして、協力医や看護師の意見等もプランに取り入れている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子・変化・出来事など記録に残し、見直しても分かり易いように色分けし、申し送りで情報共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人・家族の状況に応じ、病院等の送迎・リハビリ・トロミなどの買い物も職員が行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に町内会長・民生委員に参加して頂き地域交流に協力して頂いている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご本人・家族の希望に応じ、必要な時には医院の紹介も行っている。 | かかりつけ医の継続は可能であり、月2回協力医の訪問がある。また、個々の主治医の訪問もある。看護師が主治医・かかりつけ医との橋渡しをしており、連携も取れている。そして、いつでも連絡・相談ができる体制が整っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調の変化を見落とさず、職員・ナースと情報共有し往診時に報告している。急変時には、休日・夜間でも連絡し指示をもらい対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 本人の状態に合わせ、お見舞いを行い、医師・家族から方法収集し、退院前に病院関係・家族とカンファレンスを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 施設のできる事・出来ない事について説明を行い重度化・終末期について話し合いを行っている。看取りについての要望も聞きとり必要に応じて変更し情報・要望は、職員・看護師と共有している | 入居時に指針を説明し、同意書を得ている。重度化した場合は、主治医が利用者・家族に説明し、申し送りや職員会議の中で共有している。年間計画の中に看取りの勉強会を組み込んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変・事故発生時の対応は、職員会議等で話し合っているが定期的には出来ていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防災委員会を設立し会議等で勉強会を行ったり、避難訓練も行っている。 | 年2回職員会議の後、夜間に避難訓練を実施している。また、その後、勉強会を開いている。そして、月1回防災委員会を開催している。 | 消防署の立ち合い及び、地域住民への声かけ・参加に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 訪室時にノック・声掛けを行いトイレ誘導時にも言葉に気を付け誘導を行っている。 | 基本「○○さん」と呼んでいるが、本人・家族の希望でその人に合った呼び方をしている。入浴時の更衣や排泄失敗時の対応等、特に気を配っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話の中から要望や希望を理解し、更衣時の衣服、パジャマなどは自己決定できるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人個人の生活ペースに合わせた生活を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣服・パジャマを自分で選んでもらい外出時のお化粧・ヘアセットも行っている。希望があれば訪問散髪も行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日会には、食べたいものの希望を聞いたり、月行事の食事やおやつなど無理のない範囲で手伝って頂いたり、片付け等も手伝ってもらい役割も楽しんでもらっている。 | 行事でお寿司を手作りしたり、誕生日に回転寿司へ行ったりして食事を楽しんでいる。また、ファミレスにお茶を飲みに行ったり、家族と外食に出かけたりもしている。個々に役割があり、楽しみながら手伝ってもらえる様に支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量等、記録に残し栄養士とも話し合い、バランスの良い食事を提供している。利用者の状態に合わせ食事形態も変更している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 声掛けで口腔ケアを行い、出来ない所は職員が支援し希望があれば訪問歯科を利用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご本人のトイレサインを理解しトイレへの声掛けを行う。 | 個々の排泄パターンに合わせて、昼夜共に各居室のトイレで排泄している。また、個々のサイン（訴え・表情等）を見逃さないよう努めている。その甲斐もあり、改善した利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便が出やすいものを提供、水分も細目に提供。主治医へ連絡し下剤等の調整を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 本人希望・体調に合わせて対応。入浴剤などで楽しんで頂き時間の変更なども応じている。 | 週2回、入浴支援に取り組んでおり、体調に合わせて日時の変更も可能である。また、希望すれば毎日の入浴も可能であり、季節湯を提供したり、同性介助に取り組んだりして、入浴が楽しめるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | お昼寝をされる方もいらっしゃいますが夜安眠出来るようお昼寝の時間の調整を行い支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方箋ファイルを利用し薬の変更があれば記録に残して申し送りして譲歩共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの出来る事を見つけ、役割を持ってもらうことで張り合いを感じてもらえる様支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ホーム近辺の散歩、近くへの買い物に出掛け出来るかぎり要望に応じている。家族にも協力してもらい遠出の外出も行っている。 | 日常的に事業所周辺を散歩したり、プランターの花に水をやったり、近くのスーパーへ買い物に出かけたりしている。また、家族と外食や墓参りに行ったり、利用者・家族・職員で花見に出かけたりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族と話し合いを行い、自分で買い物を出来る楽しみを感じられる様支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族・友人・知人との電話での通話の支援を行っている。家族・知人への連絡も自由に出来ている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 月行事に季節に合わせた物をとり入れている。玄関の壁画でも季節を感じて頂けるよう努めている。 | デッキに出てお茶を飲んだり、外を眺めたりして、季節感が味わえる様に配慮している。また、ホールには自由に寛げるスペース(和室)やソファもあり、のんびりと穏やかに過ごせる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自席で過ごしたりソファで過ごしたり、その時の気分で過ごせるスペースを作っている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使っていた物を持参して頂き安全を考慮している。 | 和を感じられる居室やシンプルな洋室があり、個々に合わせたその人らしい生活空間となっている。馴染みの物を持参し、本人や家族と相談しながらレイアウトを考え、安全に過ごせるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 危険を配慮し手の届く高さ・目線に合わせた物の配置にしている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3370105250 | | |
| 法人名 | 株式会社 ファミリーズ | | |
| 事業所名 | グループホーム パラディーン神宮寺 (2F) | | |
| 所在地 | 岡山県岡山市北区北方1-14-3 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 31 年 4 月 7 日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&JigyosyoCd=3370105250-00&ServiceCd=320&Type=search |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 有限会社アウルメディカルサービス | | |
| 所在地 | 岡山市北区岩井二丁目2-18 | | |
| 訪問調査日 | 平成 31 年 4 月 13 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でも過ごせる様な環境にしている。
一人ひとりのペースで生活して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホールにはゆったりと寛げる和室やソファがあり、穏やかに過ごせる環境が整備されている。また、利用者と一緒に天ぷらを揚げたり、ゴルフ雑誌を用意したりする等、利用者の役割や趣味嗜好に配慮しながら、各自のペースに合わせて楽しく生活できる様に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 日々の業務を行う中で疑問点・改善点が出ると申し送りの時間に職員間で話し合いを行う。 | 2階の事務所に理念を掲示し、日常的に振り返るようにしている。また、業務中に聞くこともある。新入社員には、オリエンテーションの中で説明している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や買い物、地域の行事への参加等で関わりを持っている。また、中学生の職場体験の受け入れも行っている。 | 幼稚園の七夕会を見に行ったり、町内の餅つきや夏祭りに参加したりして、地域と交流している。また、中学生の職場体験を受け入れたり、月行事の時に地域のボランティアが参加したりしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 入居者と一緒に地域の行事に参加したり、ホームでの行事に地域の方等を招待し、関わりを持つことで理解をして頂けよう努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 町内会長・ご家族の方・市役所の方等に参加して頂きホームの取り組み等について報告し、意見交換を行うことでサービスの向上に努めている。 | 市職員や町内会長、民生委員、家族が参加して、2ヶ月に1回行っている。内部行事や人員配置、地域の独居状況等について報告や話し合いを行っており、生きた会議となっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村の研修には参加しているが連携は取れていない。 | 運営推進会議に市職員が毎回参加しており、サービスの取組状況等を積極的に伝えている。また、市主催の研修にも積極的に参加しながら、協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を立ち上げ法人全体で研修を行っている。 | 毎月、身体拘束委員会を開催している。また、マニュアルを整備し、インターネットや新聞等で引っ張ってきた内容を基に年3回、勉強会を行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部・内部研修を通して定期的に虐待について研修を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用する機会があり実際に利用する中で理解を深めることが出来たのでまた利用機会があれば学んだことを活かしていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 家族の方と面談を行い疑問点などあればその都度説明し、理解・納得していただけるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の方に運営推進会議に参加して頂いたり、面会時等にスタッフの方から声を掛けてたりしている。 | 運営推進会議や面会時に積極的に話す機会を設け、意見等を聞き取っている。また、聞き取った意見や要望は職員間で共有し、反映できるように努めている。利用者は日常会話から聞き取ったり、汲み取ったりしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 総務室を立ち上げいつでも意見を言える環境を作っている。また、必要に応じて個人面談を行い想いを聴いている。 | 個別面談や職員会議の中で職員の意見や提案を聞いている。また、変化があったり、何か様子がおかしいと感じた時は、管理者から積極的に職員へ話しかけている。出た意見は、勤務体制・時間等に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 夜勤の回数など、なるべく本人の希望に添えるように勤務を組みストレスなく働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に行くこと職員会議で発表を行い全体で情報を共有する。また、必要であれば研修の内容について業務にどう生かすか等話し合いを行う。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修を通じて同業者のとの交流を図り、職員会議で発表することでサービスの質の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 面談時に家族の要望等を聴いている。また入居後コミュニケーションを取りながら様々な場面で要望等聴いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 面談時に確認を行っている。入居後にはホームでの様子を報告している。また、月に一度家族の方に手紙も書いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 会話等の中からくみとり、要望に沿ったサービスが行えるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員、利用者が暮らしを共にする関係を築くために互いに支えあうよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族・友人との面会・外出等自由にして頂いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人といつでも連絡を取れる環境を作っている。またいつでも外泊等出来るようにしている。 | 馴染みの美容院や喫茶店、かかりつけ医へ行く利用者や、自分の携帯で友人に電話する利用者があり、個々の生活習慣を尊重している。また、家の近くをドライブする等、馴染みの場所との関係継続の支援に取り組んでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係を把握し職員同士で共有し、一人ひとりが穏やかに過ごせるように席の位置やソファでの位置等を配慮している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も必要に応じて本人・家族のフォローし、相談や支援を行っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりに担当職員を付け、日々の関わりの中で本人の思い・意向把握するよう努めている。 | 気になることがあればその都度、声かけして把握している。また、出た意見等は記録に残し、連絡ノートを活用して情報共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 面談時に本人・家族から聞く。また、入居後も生活を共にする中で見つけていくよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの生活リズムや心身の状態、有する力等を日々の暮らしの中から把握するよう努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 必要に応じて日々の申し送りで話し合いを行う。また、職員会議で職員全体で話し合い、それぞれの意見を反映し、介護計画を作成している。 | 更新時、家族面会時に聞き取った内容を計画作成担当者がケアプランに反映している。また、日常生活の中で利用者から聞き取った意見等も反映している。月1回モニタリングを行い、6ヶ月でまとめて職員に配布している。そして、協力医や看護師の意見等もプランに取り入れている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日中、夜間と色分けし、特に大事なことはマーカーを使用し記録する。また、日々の申し送りで気づき・変化など職員間で共有し、実践や介護計画の見直し活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人・家族の状況に合わせて、受診の付き添いや送迎など必要に応じて柔軟な支援を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に町内会長、民生委員などに参加して頂き地域に馴染めるよう協力してもらっている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望を大事にし、入居前からのかかりつけ医の継続を行っているが、希望があれば紹介も行っている。 | かかりつけ医の継続は可能であり、月2回協力医の訪問がある。また、個々の主治医の訪問もある。看護師が主治医・かかりつけ医との橋渡しをしており、連携も取れている。そして、いつでも連絡・相談ができる体制が整っている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 小さな変化や気づきでも職員間で情報共有を行い、看護師に相談・報告を行う。必要に応じて主治医に報告し、指示を仰ぐ。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 入院時にはソーシャルワーカーと連絡をとり情報交換を行ったり、職員がお見舞いに行き医療関係者から直接話を聞いたりしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に家族に説明を行う。実際に重度化や終末期になった場合には、再び家族と話し合い家族の想いを尊重する。職員全体で家族の想いを理解しどう支援していくかチームで話し合いを行っている。また、看取り加算開始に伴い看護師中心に、看取りについての勉強会も行っている。 | 入居時に指針を説明し、同意書を得ている。重度化した場合は、主治医が利用者・家族に説明し、申し送りや職員会議の中で共有している。年間計画の中に看取りの勉強会を組み込んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 看護師を中心に勉強会を行っている。訓練等定期的行っておらず課題である。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 災害について勉強会を行っている。また、防災委員会を立ち上げ会社全体での研修も行っている。 | 年2回職員会議の後、夜間に避難訓練を実施している。また、その後、勉強会を開いている。そして、月1回防災委員会を開催している。 | 消防署の立ち合い及び、地域住民への声かけ・参加に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し否定的な声掛け・プライバシーを損ねるような声掛けはしないよう心がけている。 | 基本「○○さん」と呼んでいるが、本人・家族の希望でその人に合った呼び方をしている。入浴時の更衣や排泄失敗時の対応等、特に気を配っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活のさまざまな場面で本人の希望を尊重し自己決定できるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切にし、本人のペースで生活して頂けるよう希望があれば希望に沿って支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自己決定出来る方は毎日自分で服を選んで頂いている。外出時等は一緒に選んだり普段とは違う洋服を着ておしゃれが出来るよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日会や月行事の時など食べたい物・好きなものなど希望を聞き提供している。また、可能な限り一緒に準備や片付けを行っている。 | 行事でお寿司を手作りしたり、誕生日に回転寿司へ行ったりして食事を楽しんでいる。また、ファミレスにお茶を飲みに行ったり、家族と外食に出かけたりもしている。個々に役割があり、楽しみながら手伝ってもらえる様に支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量を記録し、必要に応じて水分量も記録している。食事摂取量が少ない方は、食事とは別に高カロリードリンク等の提供を行ったり水分がなかなか取れない方にはゼリーやアイスなどの提供も行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後など、本人に応じた口腔ケアを行っている。また、希望に応じ訪問歯科も利用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | パッド・紙パンツ使用の方にも定期的にトイレの声掛けを行いトイレでの排泄が行えるよう努め、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 個々の排泄パターンに合わせて、昼夜共に各居室のトイレで排泄している。また、個々のサイン（訴え・表情等）を見逃さないよう努めている。その甲斐もあり、改善した利用者もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の排便の状態を記録し、牛乳やヨーグルトなど提供したりして個々に応じた予防を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日を決めてはいるが本人の希望やタイミングに合わせて変更し、個々にそった支援をしている。 | 週2回、入浴支援に取り組んでおり、体調に合わせて日時の変更も可能である。また、希望すれば毎日の入浴も可能であり、季節湯を提供したり、同性介助に取り組んだりして、入浴が楽しめるように支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、昼寝をしたり休息したりしていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬一覧表ファイルをいつでも見えるところに置き一人ひとりの使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解できるようにし、変化の確認に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの生活歴や力を把握し無理のない範囲で役割をもって生活して頂いている。また、音楽や散歩など個々にあった支援を行い、生活に楽しみを感じられるよう努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人ひとりのその日の希望にそって散歩に行ったり買い物に行ったりしている。また、帰宅・外出など家族の協力が必要時には、家族に連絡を取り協力して頂いている。 | 日常的に事業所周辺を散歩したり、プランターの花に水をやったり、近くのスーパーへ買い物に出かけたりしている。また、家族と外食や墓参りに行ったり、利用者・家族・職員で花見に出かけたりしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望や力に応じてお金を所持し、欲しいものを選び自分で購入できるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば家族や大切な人に連絡を取るよう対応している。また、自分で携帯電話を持たれている方は自分のタイミングで電話をかけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関には毎月季節に応じた壁面を飾っている。また、ホーム全体の室温、湿度も過ごしやすいよう管理している。毎朝、各居室の換気も行っている。 | デッキに出てお茶を飲んだり、外を眺めたりして、季節感が味わえる様に配慮している。また、ホールには自由に寛げるスペース(和室)やソファもあり、のんびりと穏やかに過ごせる空間となっている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ホールにソファを置き、いつでも休めるようにしている。テーブル席も気の合った利用者同士で過ごせるよう配置している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 以前使用していた家具や家電など使い慣れたものや好みのものは家族・本人と相談しホームでも使用して頂いている。 | 和を感じられる居室やシンプルな洋室があり、個々に合わせたその人らしい生活空間となっている。馴染みの物を持参し、本人や家族と相談しながらレイアウトを考え、安全に過ごせるよう配慮している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの「できること」「わかること」を活かし、安全かつ自立した生活が出来るよう家具などの配置、導線など個々に合わせ変えている。 | | |